

# 第16回 北本交流少年野球大会競技運営規則

北本市スポーツ少年団野球部会

## 〔大会規則〕

- 1 正式な試合回数は、7回とする。
- 2 一試合の試合時間は1時間30分とし、これを超えて新しいイニングに入ることはできない。
- 3 時間内の延長戦は9回までとする。この場合、1人の投手の1日の投球回数制限は適用しない。
- 4 試合は、1時間30分を過ぎても同点の場合、最後に出場していた選手9名の抽選により、勝敗を決定する。
- 5 暗黒、降雨その他球審によって打ち切りを命じられた場合（コールドゲーム）は、5回（4回1/2）終了で成立する。同点の場合は抽選とし、それ以前については再試合とする。
- 6 得点差のコールドゲームは、3回（2回1/2）、12点以上、5回（4回1/2）終了時以降7点以上とする。
- 7 1人の投手の1日の投球回数は、21アウトとする。  
（21アウト目のダブルプレー、トリプルプレーは1アウトとする。）
- 8 決勝・三位決定戦の特例
  - ① 得点差のコールドゲームは適用しない。
  - ② 7回を終了、又は、1時間30分（延長戦を含む）を過ぎても同点の場合は、特別延長戦（タイブレーク）を最長2回行い勝敗を決するが、なお、同点の場合は、最後に出場していた選手9名の抽選により決する。  
その方法は軟式野球運営細領による。
  - ③ 特別延長戦（タイブレーク）は、次の方法で行う。
    - （ア）特別延長戦（タイブレーク）により1イニングを行い得点の多いチームを勝者とする。  
なお同点の場合は、継続打順で更にもう1イニング行う。
    - （イ）特別延長戦（タイブレーク）は、代打、代走及び守備交代を認める。
    - （ウ）特別延長戦（タイブレーク）は、1人の投手の1日の投球回数制限は適用しない。
- 9 打者、走者、守備時の手袋及びリストバンドの使用は認める。但し投手は手袋及びリストバンド（サポーターなど）を使用することは禁止する。
- 10 捕手は、ヘルメット、マスク（スロートガード付）、プロテクター、レガース及びファールカップを着用すること。※ 控え捕手も投手の投球を受ける時は、全ての防具を着用すること。
- 11 ヘルメットは、公認（JSBB）の両耳付きとし、打者、走者及びランナーコーチ、ボールボーイも着用すること。
- 12 使用球は公認軟式J号とし、主催者側で用意する。
- 13 ロージンバッグは、各チームで用意すること。
- 14 金属バットは、公認（JSBB）されたものを使用すること。
- 15 シューズは、金属製スパイクの使用を禁止する。
- 16 第一試合の出場チームは、試合開始予定時刻1時間前からの入場を許可する。（それ以上前到着の場合は待機）
- 17 第二試合以降の出場チームの監督及び主将のみ試合予定時刻30分前までの集合を認めます
- 18 第二試合以降の会場入りは入替制とする。会場入り口付近での待機は禁止とします。
- 19 ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。

- 20 ベンチ入場者は、登録した選手20名以内と、登録した指導者（監督、コーチ、スコアラー）4名以内とする。
- 21 ベンチ入り指導者は、選手と統一されたユニフォーム（帽子、ストッキングを含む）とする。  
サングラスの使用は認める。但し目が見えないようなミラーグラス等は認めない。  
※ スコアラーは、帽子のみでもよいこととする。
- 22 各チームの監督及び主将は、試合開始予定時刻30分前に、大会本部にメンバー表（4部）を提出し、審判員立会いのもと攻守を決定しておくこと。
- 23 感染予防の観点から、各会場の空きスペースでの練習は禁止とします。
- 24 試合開始予定時刻までは出来る限り、駐車場内での待機をお願いいたします。
- 25 試合直前の会場内でのバッティング練習は禁止するが、バント練習は認める。
- 26 シートノックは5分間とする。ただし、当日2試合目の場合は、シートノックなしとする。
- 27 試合中のファールボールは、落下地点側ベンチで処理する。
- 28 塁間は23mとし、投手板と本塁間は16mとする。
- 29 ピッチャーズプレート中心を基点として、本塁から両翼70mの位置を結んだライン上にホームランネットを設ける。ただし、グラウンドの状況に合わせた位置に、ホームランネットを設ける場合がある。
- 30 塁審は、組み合わせ表のとおりとし、各チーム1名または2名従事する。組合せの若い番号を2塁審判として、もう一方が1・3塁審判を基本とする。（各市町の審判講習会受講者に限る）
- 31 熱中症対策として、守備の時間が20分に達した場合は、5分間の休憩を設け水分の補給等を行う。  
※ この場合の休憩時間は、試合時間にカウントしない。又、選手のサポート役として保護者（母親）2名のベンチ入りを認める。ただしサポート及び感染対策に徹し応援してはいけない。
- 32 選手、指導者及び応援席の父母等は、球場内外を問わずマナーに留意し、品位を損なうような行動をとらないこと。
- 33 各チームの指導者は、今大会開催につき決められた事項を、チーム全員に徹底すること。

**※太字は感染対策に関することとしておりますので、周知徹底をお願いいたします**

#### 〔審判上の注意事項〕

- 1 試合は、スピーディに進め、遅延行為とならないように充分注意すること。
- 2 攻守交代を迅速に行うために、選手は走って守備位置を往復すること。
- 3 監督は守備中にタイムを取った場合、投手のところ（マウンド）へ行き指示することができる。
- 4 プレーの判定に対する抗議権は、当該プレーヤー又は、監督のいずれか1名とする。
- 5 一試合のタイム取得回数は、攻撃・守備及び監督で各3回合計9回を限度とする。（攻撃の場合は、選手を呼んで指示した時とする）
- 6 投手の投球練習は、先発時と交代時は7球とし、2回目以降は3球とする。
- 7 守備側からの要求で試合が停止された場合、投手は投球練習をしてはならない。
- 8 野球ルールの解釈決定は各審判員が行うが、事態が紛糾したときは、速やかに4氏が集まり協議の上球審が最終判断を下す。
- 9 基本的なルールの解釈は、公認野球規則による。